

「秋徳小・中学校の島唄・三味線・八月踊り伝承活動の取組」

1 学校名

瀬戸内町立秋徳小・中学校

2 学年・人数

小学4年生「1人，中学1年生1人，中学2年生2人，中学3年生2人（計6人）」

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

平成30年4月～10月 総合的な学習の時間 (本校体育館)
平成30年10月25日(木) 学習発表会練習 (本校体育館)
平成30年10月30日(火) 学習発表会予行練習 (本校体育館)

(2) 発表の日時・場所

平成30年9月9日(日) 運動会 (本校校庭)
平成30年9月23日(日) 豊年祭 (校区内集落公民館)
平成30年11月4日(土) 学習発表 (本校体育館)

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

島唄・三味線（しまうた・しゃみせん）・八月踊り（はちがつおどり）

(2) 由来

旧暦8月15日に収穫した米や海の幸・山の幸を公民館に持ち寄り，豊作を感謝して唄や踊りを楽しんだのが豊年祭である。一年中働いている島民にとって年に一度の楽しい日であり，ご馳走が並ぶ日だったという。最近では73歳以上の方の長寿を祝う敬老会を兼ね，土日に行われ，青壮年による奉納相撲，子どもたちの島唄・三味線が，高齢者を喜ばせている。祭の最後は，参加者全員で踊る八月踊りで締めくくられる。

(3) 構成等

① 島唄・三味線

唄う人と，三味線を弾きながら合いの手を入れる人に分かれて唄う。チヂンという打楽器が入ることもある。本校では，この地域に長くいる子どもが三味線を，転入生が唄を，島口で唄うことが難しい子どもはチヂンを担当している。

② 八月踊り

八月踊りは，高齢者の唄と青壮年が打ち鳴らすチヂンに合わせ，輪になって踊る踊りである。元来は男女が即興で歌詞を作って唄う掛け合いであったが，現在はよく唄われる歌詞さえも，唄える方が減ってきている。

5 保存会や地域との連携の具体

児童生徒6人の中で，地元で育ち島唄・三味線，八月踊りに親しんできた子どもは1人で，教職員もほとんどが未経験である。そのため，地域の方々の

協力をいただきながら練習し、運動会や学習発表会、豊年祭、PTA主催教職員歓送迎会などで披露している。高齢者の方々が、一緒に口ずさんだり手拍子をしたりして楽しんでいる姿に子どもたちも伝統芸能継承の大切さや達成感を味わったようである。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

昨年度から、毎週水曜日（18:00～19:00）、図書室を開放し、三味線練習の場を提供している。自由参加を原則とし、三味線や島唄に気軽に接する機会を作ることを目的としたものである。

さらに、総合的な学習の時間に奄美・かけろまの歴史と文化についての講演（町郷土館の町先生）を聞くことで、郷土の文化に興味をもたせる場とした。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



【写真】

1. 秋徳集落豊年祭の八月踊り風景。
2. 野見山集落での取材活動風景。
3. 佐知克集落でのシマウタ披露風景。
4. 学習発表会での披露風景。

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

- ・ 地域の方々が受け継いできた伝統を経験できることに感謝しながら取り組みました。運動会の八月踊りの練習では、唄や踊りをていねいに教えてくださって、上手く踊ることができました。本番では、多くの地域の方が参加して下さって、とても嬉しかったです。これからも、伝統の1つとして残していきたいと考える良い機会となりました。（中学生）
- ・ 私は運動会や豊年祭りで楽しみながら踊りました。秋徳集落の八月踊りを「子」や「孫」の代まで教えてあげられたらいいなと思いました。島の伝統の1つでもある八月踊りを踊れることも大事だけど、唄も覚えて唄えるようになりたいなと思いました。これからも集落の中で八月踊りの唄や八月踊りについていろいろなことを教えてもらいたいと思いました。八月踊りなどの島の伝統は失ってしまったらいけないので、大切に守っていききたいです。（保護者）